



Title	ホジェン語の動詞屈折形式とその統語機能
Author(s)	李, 林静
Citation	北方言語研究, 4, 111-126
Issue Date	2014
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55122
Type	departmental bulletin paper
File Information	nls-4-08.pdf



ホジェン語の動詞屈折形式とその統語機能¹

李 林 静
(成蹊大学)

1. はじめに

ホジェン語はツングース諸語の 1 つであり、中国黒龍江省同江市、饒河市で話されている²。ホジェン語の屈折形式も他のツングース諸語のように、定動詞、形動詞、副動詞と 3 種に分類することができる (以下、伝統的に形動詞と呼ばれてきたものは分詞と呼ぶ³)。本稿では主に、以下のことを主張する。

- ・ホジェン語の定動詞直説法は 3 人称非過去の接辞しか持っておらず、その他の人称・数、時制はもっぱら分詞の述語機能で賄う。
- ・分詞は主節述語、連体節述語、名詞述語として機能し、そのうち、もっともメインな機能は主節述語としての機能である。ホジェン語の分詞は非常に強い動詞性を持っている。
- ・副動詞のうち、人称を伴う条件副動詞は 2 人称単数接尾辞に後続された際に、強いモダリティ的意味を表しており、定動詞と似た振る舞いをする。

本稿で使われるデータは李(2006), (2011a), (2011b), (2012a), (2012b), (2013) 及び 2013 年 8 月に同江市において採集した用例のいずれかによる。

2. 動詞形態法の概要

ホジェン語の動詞語幹は、屈折接辞 (定動詞接辞・分詞接辞・副動詞接辞のいずれか) を必ずともなう⁴。動詞語幹は語根単独、または語根にヴォイスやアスペクトを表す派生接辞が付いて作られる。分詞接辞、一部の副動詞接辞の後には、主語の人称・数を標示する接尾辞が付加される。これらの人称接尾辞は所有を表す人称接尾辞と同一パラダイムを有す。以下表 1 に動詞形態法の概要を示し、表 2 に人称接尾辞のパラダイムを示す。

[表 1] 動詞形態法の概要 (括弧で囲んだ要素は必須ではない)

動詞語幹-		-屈折接辞	-人称接尾辞
語根	(-派生接辞-)		
	ヴォイス、アスペクト	-定動詞	
		-分詞	
		-副動詞	条件副動詞のみに付加

¹ 本研究は平成 23-25 年度文部科学省科研費補助金 (若手研究(B)) 「ホジェン語の音声・映像資料による電子コーパスの構築及びそれに基づく記述研究」 (研究代表者: 李 林静、課題番号: 23720213) の助成による成果の一部である。本稿は、AA 研共同利用・共同研究課題「準動詞に関する通言語学的研究」 (研究代表者: 山越康裕) 2013 年度第 2 回研究会 (2013 年 10 月 19 日) における発表に基づくものである。数多くの有益なコメントをいただき、この場を借りて御礼申し上げたい。

² 母音音素: /a[ɑ], i, u, e[ɛ], o[ɔ]/ 子音音素: /p, b, t, d, c[tʃ], j[dʒ], k, g, x, m, n, N[ŋ], f, s, S[ʃ], r, l, y[j], w/

³ 本稿は『北方言語研究 3』における[特集 動詞屈折形式]にある 5 つの論文から示唆を得ている。本稿のまとめ方は本特集にある論文を参考にしている。

⁴ 動詞語幹が屈折接辞を伴わない場合、2 人称への命令を表す。

[表 2] 人称接尾辞のパラダイム

述語・所有者人称	単数	複数
1 人称	-yi	-wu
2 人称	-si	-su
3 人称	-ni	-ti

3. 定動詞

動詞語幹に定動詞接辞が付加したものを定動詞と呼ぶ。定動詞はもっぱら述語として用いられる。定動詞には四つの法がある。直説法、命令法、勧誘法、禁止法である。ここでは直説法のみについて説明する。

3.1 -re/-ren について

定動詞直説法の接辞には非過去と 3 人称が組み合わさった形の -re/-ren しかない。非過去形に対応する過去形もない。これから起きること（例(1)）や恒常的に起きること（例(2), (3), (4)）を表す。-re と -ren は自由に交替できる。現時点のデータでは、-re と -ren はほぼ半々の割合で使われている。表 3 に動詞 eme-「来る」の定動詞パラダイムを示す。

[表 3] eme-「来る」の定動詞パラダイム

人称 定動詞		単数			複数		
		1 人称	2 人称	3 人称	1 人称	2 人称	3 人称
直説法	非過去			eme-re/-ren			eme-re/-ren
	過去						
命令法		eme-φ, eme-ru					
勧誘法		eme-mai					
禁止法		eji eme-re					

- (1) min neu-yi tumaki eme-re.
私の 妹-1SG 明日 来る-FIN.3
妹は明日来る。

- (2) min neu-yi tuolin eme-re.
私の 妹-1SG 冬 来る-FIN.3
妹は毎年冬に来る⁵。

- (3) yugdu-le-ki-si jiu ei unsi-ren.
櫛-VBLZ-CVB-2SG Chn. INTJ 痛む-FIN.3
(産後一ヶ月養生の時にあなたが頭を) 櫛で梳くと、(頭が) 痛くなる。

⁵ “我妹妹每年冬来”「妹が毎年冬に来る」という中国語の文を話者に訳してもらったところ、この文になった。ホジェン語では「毎年」の表現が難しい。

- (4) niani ya-we xesu-yi-si Saku ulxi-**re**.
 彼 何-ACC 言う-PTCP.NPAST-2SG みな 分かる-FIN.3
 gia nio keci ulxi-Se-n nio bi-Se-n.
 別 人 ように 分かる-NEG.NPAST-3SG 人 ある-NEG.NPAST-3SG
 彼はあなたの言うことが何でも分かる。他の人のような分からない人ではない。

風間 (2012:143) では、ナーナイ語の定動詞について、次のように述べている。

「定動詞の頻度は低く、その使用は、もっぱら直接に会話している場面での 1、2 人称の主語の行為に限られる。3 人称主語の行為では、きわめてまれだが、話し手がその行為を直接目撃した場合に用いられることがある。」

ホジェン語に関しては、定動詞は 3 人称の形式しか持つておらず、1、2 人称が主語の場合には、述語動詞はもっぱら述語機能を持つ分詞を用いる。3 人称が主語の場合には、-re や-ren の使用頻度が高く、直接体験とも無関係のように思われる。

3.2 動詞語幹+φ+mi について

先行研究及び筆者の調査から量的には極わずかだが、定動詞 1 人称単数と思われる例が見られる。動詞語幹+φ+mi である。この形式は先行研究や年配の話者からしか観察されず、現在の体系とは異なる古い体系を構成する接辞であると推測される。現在調査が可能な話者から採取できていないため、-φ を定動詞として表 3、-mi を 1 人称単数人称接尾辞として表 2 には入れていないが、以下に若干この形式について触れておく。

- (5) bi buda jefu⁶-φ-**mi**. (凌 1934:246)
 私 ご飯 食べる-FIN-1SG
 私はご飯を食べる。
- (6) bi siao Xiao-tki ene-φ-**mi**. (安 1986:51)
 私 学校-ABL 行く-FIN-1SG
 私は学校に行く。
- (7) min sin-du em tergele gada-φ-**mi**.
 私 あなた-DAT 一 服 買う-FIN-1SG
 私は君に服を買う。(私は君に服を買ってあげる。)

- (8) ici-Sci-si ba, si ici-ki-si bi sine-we xerbu-φ-**mi**.
 見る-NEG.PAST-2SG Chn. 推量 あなた 見る-CVB-2SG 私 あなた-ACC 連れていく-FIN-1SG

⁶ 「食べる」の語幹は jefu が期待されるが、ここでは原文のまま引用する。例(5), (6)の φ は筆者が追加したものである。

あなたは見たことがないでしょう。あなたが見るなら、私はあなたを連れて行く。

(9) bi=de einin ici-a-φ-mi.

私=CLT 今日 見る-趨向-FIN -1SG

私も今日見に行く。

凌 (1934:247) では、「現在形一人称単数の語尾には[yi]ではなく、[mi]をつけることがある。」とし (例(5))、安 (1986:51) では、「定動詞直説法未完成体は語幹+人称である」とあり、語幹+mi を 1 人称の例 (例(6)) として挙げている。筆者の調査においては、na bei と自称する⁷何井山氏 (1930 年生まれ) (例(7))、na nio と自称する故尤翠玉氏 (1927 年生まれ) (例(8))、na nio と自称する故尤桂珍氏 (1927 年生まれ) (例(9)) の 3 人 (皆 80 歳以上) のデータにこの用法が見られる。「私が～をする」のように、1 人称の意志を表すのがメインの使い方である。

このような用法は他の na bei と自称するもう一人の話者 (70 代) からは見られない。また、na nio と自称する他の 60 代、70 代の話者からも見られない⁸。これらの話者に上記の文を確認したところ、容認はされたが積極的に使用しているわけではなかった。このことから、この-φ-mi は割と古い形だと思われる。

この形式は、ツングース諸語⁹におけるホジェン語の系統的位置¹⁰を究明する際に、重要なヒントとなりうると考えられるため、まだ分析は不十分だが、ここで言及することにした¹¹。

4. 分詞

動詞語幹に分詞接辞が付加したものを分詞と呼ぶ。分詞は肯定と否定、非過去と過去の対立を持つ (表 4)。分詞は主節述語、連体節述語 (名詞を修飾する)、名詞節述語 (名詞的

⁷ ホジェン語の方言はキーレン方言とヘジェン方言の 2 種類があると言われてきた。キーレン、ヘジェンはそれぞれの方言を話す人の自称である。本稿はキーレン方言の記述である。また、これらの自称とは別に、na bei, na nio, na nai (na は「土地」、bei, nio, nai はいずれも「人間」の意) の三つの自称があり、このうち、na bei と na nio はキーレンと自称し、na nai はヘジェンと自称している。現在 na nai の話者はすでに確認できない。na bei と na nio のことばに語彙レベルでの差が若干見られるが、同一方言として扱ってきた。

⁸ 筆者がこれまで調査してきた話者の内訳：na bei 2 人、na nio 10 人。現在の話者数は 10 人未満で、全員 60 代以上である。

⁹ ツングース諸語の分類は、Ikegami [2001(1974):395]に従う。第 I 群：エウエンキー語、エウエン語、ソロン語、ネギダル語、第 II 群：ウデヘ語、オロチ語、第 III 群：ナーナイ語、ウルチャ語、ウイルタ語、第 IV 群：満州語

¹⁰ ホジェン語の系統的位置については、風間 (1996:136) では次のように述べている。「音韻対応の面からは系統的に II 群に近いと考えられるヘジェン語だが、他の面、特に他言語から影響を受けやすい文法面などにおける現在の共時的な状況は、II 群よりも I 群や III 群に近い特徴を示す点があるようだ。(中略) ある意味で I 群と II 群とのミッシング・リンクともいえるヘジェン語の位置の正確な把握は、ツングース諸語全体の歴史を解明してゆく上で重要な課題であると考えられる。」

¹¹ ちなみに、ネギダル語 (I 群) の定動詞直説法現在 1 人称単数の形は-φ-m であり (風間 (2002:115))、ウデヘ語 (II 群) の定動詞直説法現在 1 人称単数の形は-φ-mi であり (風間 (2004:17))、ナーナイ語 (III 群) の定動詞直説法現在 1 人称単数の形は-(r)A(n)-bi である (風間 (2010:240))。

になり、格語尾を取る)の3つの機能を持っている。上記に見るように、定動詞直説法は非過去3人称以外の時制、人称、数が欠けているため、主節の述語となる形式は主に分詞である。

[表4] 分詞接辞の形式

	非過去	過去
肯定	-yi	-xe
否定	-Se/-S	-Sci

李 (2011a)、李 (2011b)、李 (2012a)、李 (2012b)、李 (2013) 5つのテキスト(計: 約59392字)に現れた-yi, -xeの機能について調査した結果、下記の表5が得られた。

[表5] 分詞各機能の使用頻度

	合計	主節述語	連体節述語	名詞節述語
-yi	244 例	200 例 (81.9%)	7 例 (2.8%)	37 例 (15%)
-xe	164 例	155 例 (94%)	4 例 (2.4%)	5 例 (3%)

分詞が主節述語として使われる例は圧倒的に多く、分詞が連体節述語として使われる例は極わずかであることがわかる。以下に、4.1 節～4.3 節において、肯定非過去形-yi、肯定過去形-xeの3つの機能について記述し、否定形については4.4 節で触れる程度にとどめる。

4.1 主節述語

肯定非過去形-yiは現在起きていること、これから起きること、恒常的に起きることを表す。過去形3人称単数-xe-niの人称-niの母音iは脱落し、xe-nになることが多い。3人称複数接尾辞は-tiであるが、主語が3人称複数で、動詞人称接尾辞が3人称複数-tiではなく、3人称単数-niの形になっている場合がほとんどである。3人称複数人称接尾辞の衰退が顕著に見られる。例(10)は人称接尾辞が3人称単数の例であり、例(11)は人称接尾辞が1人称単数と2人称複数の例であり、例(12)は主語が3人称複数、人称接尾辞が3人称単数の例である。

例(11)のように、昔のことを語る際にも、「昔の人はこんなもんだ」というように、過去形ではなく、非過去形を用いることが多い。

- (10) xaNke-m xesu-**yi**-ni bei.
怒る-CVB 言う-PTCP.NPAST-3SG Chn.PTCL
彼は怒って言うのさ。

- (11) bi jule tule uji-**yi**¹². yao uile-**yi**=de
私 昔 外 産む-PTCP.NPAST.1SG 何 働く-PTCP.NPAST.1SG=CLT

¹² 分詞-yiと1人称単数人称接尾辞-yiとの融合した形である。ここでは音形に忠実な形で標記している。

uile-yi ba-du uji-yi.
 働く-PTCP.NPAST.1SG ところ-DAT 産む-PTCP.NPAST.1SG
 su=ne esi=ne hai naxan-du uji-yi-su.
 あなたたち=TOP 今=TOP Chn. オンドル-DAT 産む-PTCP.NPAST-2PL
 私は昔外で（子供を）産む。どんな仕事をして、その仕事をするところで産む。
 あなたたちは？今は？¹³オンドルで産む。

- (12) eni-xe-n. sikse Saku eni-xe-n.
 帰る-PTCP.PAST-3SG 昨日 皆 帰る-PTCP.PAST-3SG
 （アンサンプルの踊り子たちは）帰った。昨日みんな帰った。

表3に示したように、命令を表す形式は「動詞語幹- ϕ 」または「動詞語幹-ru」であるが、「動詞語幹-分詞-2 人称単数」で命令を表す例もあり、その使用頻度も低くない。例文(13)のようにホジェン語の分詞はモーダルな意味も表すことができる。これは、ホジェン語の分詞は動詞性が強いことの裏付けとなりうるのではないだろうか。

- (13) xodoN-ji ene-yi-si. erke~ ene-ki-si aci-Se-n.
 早い-INS 行く-PTCP.NPAST-2SG 遅い 行く-CVB-2SG 合う-NEG.NPAST-3SG.
 早く行きなさい、ゆっくり行っではいけない。

4.2 連体節述語

分詞には常に主語の人称・数が標示される¹⁴。

- (14) tumaki eme-yi-ni nio min neu-yi.
 明日 来る-PTCP.NPAST-3SG 人 私の 妹-1SG
 明日来る人は私の妹だ¹⁵。

- (15) sikse eme-xe-n nio shi¹⁶ min neu-yi.
 昨日 来る-PTCP.PAST-3SG 人 Chn. 私の 妹-1SG
 昨日来た人は私の妹だ。

表5に示されたように、5つのテキストから得た連体節述語の例は11例（-yi: 7例、-xe :

¹³ ne のグロスには TOP とつけているが、実際の発話では上昇イントネーションとなっている。「私は昔畑で子供を産んでいたのに、今は？あんたたちときたら、（楽な思いをして）オンドルなんかで産んだりして（けしからん）」というニュアンスの文であるため、「あなたたちは」、「今は」の後に「？」をつけている。

¹⁴ ナーナイ語の形動詞の形容詞的（連体的）方法において見られるような人称表示が伴わない例（風間（2006:104））は、現時点のホジェン語のデータにおいては見られていない。

¹⁵ 例(14)と(15)は筆者が中国語で作文し、話者に訳してもらった例である。元の中国語はそれぞれ、“明天要来的人是我妹妹”、“昨天来的人是我妹妹”である。

¹⁶ shi : 中国語の連結詞“是 shi”、主題標識としての借用である（津曲 1996:182）。

4 例)のみであるが、寺村(1975)に指摘された日本語の連体修飾に見られるような「内の関係」と「外の関係」との両方の連体修飾の例が見られる。

内の関係とは、[さんまを焼く男]、[男が焼くさんま]のような修飾部と主要部で項関係が存在するもの、外の関係とは、[さんまを焼く匂い]のような修飾部と主要部で項関係が存在しないものである。

その内訳: 内の関係 10 例(被修飾語を元の文に戻した際に主語となる例は 7 例(例 16a)、目的語となる例は 1 例(例 16b)、元の文で行為の場所となる例は 2 例(例 16c))である。外の関係 1 例(例 16d)である¹⁷。

- (16) a. **soNo-yi-ni** **xite** baka *dingzhe* soNo-yi-ni
泣く-PTCP.NPAST-3SG 子供 得る ずっと 泣く-PTCP.NPAST-3SG
hai teble-yi-si *hai* meme-we ulu-yi-si.
まだ 抱く-PTCP.NPAST-2SG Chn.まだ 乳-ACC あげる-PTCP.NPAST-2SG
泣く子だったら、抱いたり、乳をあげたり(しなければならない)。
- b. **adi** **adi=ke** **ei** mama **uci-xe-n** **xile-ni**
いくつ いくつ=CLT このお婆さん 産む-PTCP.PAST-3SG 子供たち-3SG
dou em ba-du *bisi-ti*.
皆 一 ところ-DAT いる:PTCP.NPAST-3PL
このお婆さん(姑)が産んだ子供たちは(何人ていても)、みんな一緒に暮らす。
- c. **sagdem** **asen** **xite** ta-du **ixan** **uji-yi-n** **ba-du**
一番大きい 女 子供 そこ-DAT 牛 飼う-PTCP.NPAST-3SG ところ-DAT
ulgian *hai* *uji-m* *bisi-ni* a?
豚 Chn. も 飼う-CVB いる:PTCP.NPAST-3SG Q
上の娘さんはそこで、牛を飼っているところで、豚も飼っているの?
- d. **tuelin** **afine-yi-ni** **elin** **omnio**
冬 寝る-PTCP.NPAST-3SG 時間 長い
冬は寝ている時間が長い。

4.3 名詞節述語

分詞が名詞的に働き、格接辞を取る際には、動詞語幹-分詞-格-人称の順番となる。現在確認されている分詞に後続しうる格接辞は、主格- ϕ 、対格-we、与格-du、具格-ji の 4 つで

¹⁷ 風間(2006)では、ナーナイ語の形動詞による連体修飾節において、内の関係と外の関係はどのように実現しているかについて詳しく論じている。その示唆を受け、ホジェン語ではどうかと見てみたが、現時点のデータでは例が少なく、何か傾向が見られるわけではない。詳しい分析は今後の課題とし、ここでは例を挙げるにとどめた。

ある¹⁸。その中で、主格、与格の例が圧倒的に多く、現時点で確認されている与格の例のすべてが「～する（した）時に」という時を示す用法である。

4.3.1 主格の例

以下に主格の例を提示する。

- (17) *ni uile-xe-si ai oto¹⁹-ki-n jiu zhengba fenr*
 Chn.あなた 働く-PTCP.PAST-2SG 良い なる-CVB-3SG Chn. 8 点稼ぐ
uile-xe-si komso oto-ki-n san fenr wu fenr doushita.
 働く-PTCP.PAST-2SG 少ない なる-CVB-3SG Chn.3 点や 5 点だったりする
 働いたのがよければ 8 点、働いたのが少なければ 3 点や 5 点になる。

4.3.2 与格の例

与格に後続する人称接尾辞は基本的に再帰人称である（例 18,19）。3 人称（例 20）または人称が伴わない例もしばしばある。

- (18) *imaxa jobgole-yi-du-yi, tate-rgi-re,*
 魚 刺す--PTCP.NPAST-DAT-REFL 引っ張り出す-ITER-CVB、
tate-re imaxa, ili-re=ke, imaxa jobgole-yi-ni.
 引っ張り出す-CVB 魚 立つ-CVB=CLT 魚 刺す-PTCP.NPAST-3SG
 （私の旦那が）魚を刺す時、（槍を）引いて、（船に）立って、魚を刺す。

- (19) *uile-yi-du-yi dar-me-yi=de unsi-yi-ni.*
 働く-PTCP.NPAST-DAT-REFL 腰-1SG=CLT 痛む-PTCP.NPAST-3SG
 （私が妊娠して）働く時に腰も痛い。

- (20) *bude-yi-du-ni titi-yi-ni.*
 死ぬ-PTCP.NPAST-DAT-3SG 着る-PTCP.NPAST-3SG
 （彼らは）死ぬ時に着る²⁰。

4.3.2 具格の例

ナーナイ語にも見られる【分詞-具格-人称 *gese*】という構造があり、「～するやいなや」のような意味が表される²¹。*gese* は「一緒に」という意味の語であり、この構造は「～する

¹⁸ 筆者は主格- ϕ , 対格-*we/-me*, 与格-*du*, 具格-*ji*, 方向格-*le/-dule*, 奪格-*tki* の 6 種類の格接辞を認めている。

¹⁹ *odo*-「なる」に-*ki* (条件副動詞) や-*xe* (分詞過去形) などの接辞が後続する際に、子音 *k* や *x* の影響により、*d* が無声化し、*t* になることが多い。ここでは音形に忠実な形で標記している。

²⁰ ナーナイ人のところに旅行に行ってきた話者の発話である。ナーナイ人が生きているうちに、自分が死ぬ時に着替える服を用意し、それを亡くなった時に着るという文脈での発話である。

²¹ ただし、ナーナイ語は[分詞-具格-再帰人称 *gese*]となる（風間 2006:101）。

と同時に、～すると共に」の意になる。

- (21) ei jabjin xite ei mafa-ni
 この 蛇 子供 この お爺さん-3SG
 baldi-**yi-ji**-ni **gese** nod-a-xe-ni.
 生まれる-PTCP.NPAST-INS-3SG 共に 捨てる-趨向-PTCP.PAST-3SG
 お爺さんはこの蛇の子供（達）を生まれたと同時に捨ててしまった。

名詞節が与格接辞や「具格接辞…**gese**」を伴うと、「～する時に～」、「～すると同時に～」というように意味的に副詞節として働くと言えよう。安（1986:55）において、格接辞-**du** や -**ji** が副動詞として記述されたのもそれゆえと考えられる。長崎（2013:48）でも指摘があったように、これは「分詞語尾自体に副詞節を導く働きがあるのではなく、名詞節が格接辞の付与により副詞節となったのだと解釈できる」のである。

4.4 分詞否定形

分詞の否定非過去形は動詞語幹＋**Se/S**＋人称であり、否定過去形は動詞語幹＋**Sci**＋人称である。以下に分詞否定形が主節述語になる例、連体節述語になる例を提示する。名詞節述語になる例はまだ収集できておらず、これを今後の課題とする。

- (22) uile-**Se**-n nio buda jefu-**Se**-n.
 働く-NEG.NPAST-3SG. 人 ご飯 食べる-NEG.NPAST-3SG.
 働かないものは食べない。
- (23) gia nio keci ulxi-**Se**-n nio bi-**Se**-n.
 別 人 ように 分かる-NEG.NPAST-3SG. 人 ある-NEG.NPAST-3SG.
 彼は他の人のような分らない人ではない。
- (24) si ici-**Sci**-si ba, sobgo tergele-we-ni.
 あなた 見る-NEG.PAST-2SG Chn.PTCL 魚皮 服-ACC-3SG
 あなたは見なかったでしょう、魚皮衣を。

5. 副動詞

動詞語幹に副動詞接辞が付加したものを副動詞と呼ぶ。副動詞は主として副詞節述語として機能する。副動詞語尾には3種類（-**re**²²、-**mi**²³、-**ki**）が認められる。先行副動詞-**re**、同時副動詞-**mi**が用いられた節の主語は主節の主語と同一主語である。また、この二つの副動詞の後に主語の人称・数、時制が標示されることはない。条件副動詞-**ki**が用いられた副詞節の主語と主節の主語と同一主語または異なる主語の文が両方見られる。また、-**ki**の後

²² -**re** の異形態に-**ru/-ro**がある。

²³ -**mi** の異形態に-**m**がある。

に主語と一致する人称・数が伴うが、時制が標示されることはない。

5.1 人称をともしない副動詞-mi, -re

-mi と-re はほぼ安 (1986:57) の記述通り、-mi は主節動詞の表す動作の様式を表したり、副動詞の表す動作と主節動詞の表す動作が同時進行であることを表したりし、-re は一つ或いは一つ以上の動作が主節動詞の表す動作より先に行われることを表す。

- (25) tate-**m** wa-yi-ni.
 引っ張る-CVB 殺す-PTCP.NPAST-3SG
 (犬は鶏を) 引っ張って殺す。

- (26) jefu-**re** ei emergi-yi-ni.
 食べる-CVB INTJ 戻ってくる-PTCP.NPAST-3SG
 彼は食べてから帰る。

可能 (mete-)、能力 (ulxi-)、獲得 (baka-²⁴)、開始 (deriwu-/du-)、終止 (odi-) を表す補助動詞の前に来る本動詞には必ず同時副動詞-mi が用いられる。他の動詞より、これらの補助動詞は-mi と強く結びついており、一体になっていると見られる (詳しくは李 (2003) も参照されたい)。

- (27) luca gurun-du-ni ene-**m** mete-S da-xa-n.
 ロシア 人たち-DAT-3SG 行く-CVB できる-NEG.NPAST なる-PTCP.PAST-3SG
 (洪水で) ロシアにも行けなくなった。

- (28) esi surgi dou jefu-**m** baka-uSen.
 今 野菜 でさえ 食べる-CVB 得る- IMPRS .NEG
 今野菜も食べることができない。(洪水で野菜が手に入らない。直訳: 食べ得ない。)

意味的に「行く」、「来る」の目的となる副詞節では、ene-「行く」eme-「来る」の前に-mi が用いられる。つまり「～しに行く」、「～しに来る」の文の作り方は日本語と似て、ene-「行く」、eme-「来る」が後行し、～-mi ene-, ~-mi eme-となる。中国語の作例を話者に訳してもらった際に得られた例では、ene-「行く」やeme-「来る」が先行する例も見られる。(例(31))。これは中国語の語順の影響だと推測される。

- (29) min-dule arki omi-**m** ene-ki-si, karci,
 私の-ALL 酒 飲む-CVB 行く-CVB-2SG 近い
 私のところに酒を飲みに行けば? 近いし...

²⁴ baka-は「得る、手に入る」という意味の動詞である。「動詞語幹-m baka-」という構造は中国語の結果補語の“V+着 zháo”と似ているため、何らかの関係がないか今後調べたい。

- (30) edi nage niu-re nage jaxa-we zheng -le-m ene-yi-ni e.
夫 Chn.INTJ 出る-CVB Chn.INTJ お金-ACC 稼ぐ-VBLZ-CVB 行く-PTCP.NPAST-3SG PTCL
旦那は出かけてお金を稼ぎに行く。

中国語の語順の影響だと思われる例：

- (31) ti elin min jog-dule-yi lawei eme-mi ukci-a-xa-ni.
その 時 私の 家-ALL-1SG いつも 来る-CVB 遊ぶ-趨向-PTCP.PAST-3SG
あの時はいつも家に遊びにきていた。【他那个时候总到我家来玩儿。】

なお、-miと-reは存在動詞bi-と組み合わせた際に、日本語の「～ている」のようにアスペクト的な意味を表すことができる。-mi bi-と共起する動詞が日本語のいわゆる動作動詞、-re bi-と共起する動詞はいわゆる変化動詞に相当する(詳しくは李(2005)を参照されたい)。

- (32) a. ker-ci-m bisi-ni. b. te-re bisi-ni.
切る-CVB いる.PTCP.NPAST-3SG 座る-CVB いる.PTCP.NPAST-3SG
(彼が) 切っている。 (彼が) 座っている。

5.2 人称をともなう副動詞-ki

人称が伴う副動詞形は、動詞語幹-ki-人称 という構造である。これは、主節動詞の表す動作が行われるための条件を示す。例文(33)は副詞節と主節が異主語を用いる例で、例文(34)は副詞節と主節が同主語を用いている例である。

- (33) nio-le eji ene-re ha. ene-ki-si nio tixare-Se-n.
人-ALL PROH 行く-PROH Chn.確認 行く-CVB-2SG 人 望む-NEG.NPAST-3SG.
人のうちに行くな。あなたが行くと人は(あなたを)嫌う。

- (34) ya ya anci nio eme-ki-n yao jafu-re.
何 何 ない 人 来る-CVB-3SG 何 つかむ-FIN.3
何もなくて(何も用意しなければ)、人が来たら、何を使うの(何を使って、あなたの世話をするの)？

ホジェン語の副動詞もナーナイ語のそれと同様、「基本的に文末に立つことができず、主節なしで文を形成することもできない(風間(2012:143))」が、動詞語幹-ki-2 人称単数 という形式のみ、文末に立ち、文を言い切ることができる。この際は文末のイントネーションを上昇させなければならない。2 人称単数に対する軽い命令を表し、モーダルな意味を表している。日本語では「～したら？」の後に「どう？」を補うことができるのに対し、ホジェン語の場合は-ki-si の後に、何かが後続するケースは見られない。

- (35) a. jefu-re ene-**ki-si**.
 食べる-CVB 行く-CVB-2SG
 食べてから行けば？
- b. maci maci xesu-**ki-si**.
 少し 少し 話す-CVB-2SG
 あなたも少し話したら？
- c. si maci dudu-**ki-si**. dudu-ru teine-**ki-si**.
 あなた 少し 横になる-CVB-2SG 横になる-CVB 休む-CVB-2SG
 あなた少し横になったら？横になって休んだら？
- d. min-dule arki omi-m ene-**ki-si**, karci,
 私の-ALL 酒 飲む-CVB 行く-CVB-2SG 近い
 私のところに酒を飲みに行けば？近いし...

このように、-ki に 2 人称単数が後続した際に、副詞節のみで文が成り立つ。この時にのみ、定動詞に似た振る舞いをするともいえよう。ただし、他の人称に関しては、そのまま、主節なしで、副詞節のみで文が成立することはできないため、あくまで -ki を副動詞として位置付けることにする。

6. 分詞・副動詞の動詞性

江畑 (2013:21) にも指摘があったように、「通言語的に、分詞や副動詞は、定動詞に比べて様々な点において動詞性の低い形式であることが多い」という。しかし、ホジェン語の場合は、定動詞が衰退し、分詞が定動詞にもまして強い動詞性を持っていると言っても過言ではない。また、一部の副動詞において、定動詞と似た強い動詞性が見られる。ここでは、動詞屈折形式の動詞性について、動詞的文法範疇の標示という観点から考えてみたい²⁵。ホジェン語の動詞的文法範疇としては、ヴォイス・アスペクト・肯否・時制・法・人称がある。

表 1 でも示したように、ホジェン語にはヴォイスやアスペクトを表す派生接辞がある。これらの派生接辞は、titi-rgi-kune-xe-ni 「(脱いだものを) 再び着させた」(着る -ITER-CAUS-PTCP.PAST-3SG)、titi-rgi-kune-re 「(脱いだものを) 再び着させて」(着る -ITER-CAUS-CVB) のように分詞接辞や副動詞接辞と共起できる。また、上で述べてきたように、分詞には否定・時制・法(命令のみ)・主語の標示を行うことができる。条件副動詞には主語の人称・数を標示する接尾辞が後続することが可能であり、2 人称単数の場合には、副詞節のみで文が完結し、軽い命令を表すことができる。

定動詞、分詞、副動詞が標示しうる動詞的文法範疇を表 6 にまとめる。

²⁵ このような分析の仕方は江畑 (2013:21) を参考に行っている。

[表 6] 動詞屈折形式が標示しうる動詞的文法範疇

		態	アスペクト	肯否	時制	法	主語の人称・数
定動詞		○	○	×	○ 非過去のみ	○	○ 3 人称のみ
分詞		○	○	○	○	○ 命令のみ	○
副動詞	先行、同時	○	○	×	×	×	×
	条件	○	○	×	×	○ 命令のみ	○

このように標示しうる動詞的文法範疇から見ると、分詞は定動詞よりもしっかりした動詞性を持っていることがいえよう。副動詞の動詞性に関しては種類によってばらつきが観察され、定動詞と似た機能を持っているものもある。

7. まとめ

以上、ホジェン語の動詞屈折形式とその機能について考察を行った。第 2 節でホジェン語動詞形態法の概要を述べ、第 3 節から第 5 節で定動詞・分詞・副動詞の用法について記述し、第 6 節で分詞・副動詞の動詞性について見てきた。ホジェン語の動詞屈折形式を以下の表 7 にまとめる。

[表 7] ホジェン語の動詞屈折形式

定動詞	直説法	非過去	-re/ -ren
	命令法		- ϕ / -ru
	勧誘法		-mai
	禁止法		ejl...-re
形動詞	肯定	非過去	-yi-人称
		過去	-xe-人称
	否定	非過去	-Se-人称
		過去	-Sci-人称
副動詞	人称がつくもの		-ki-人称
	人称がつかないもの		-mi、-re

①定動詞直説法は 3 人称非過去の形式しか持っておらず、もっぱら主節述語として機能する。3 人称非過去以外の人称・数及び時制の標示はもっぱら分詞の述語機能に頼る。

②分詞は主節述語、名詞節述語、連体節述語として機能するが、もっともメインな機能は主節述語としての機能である。標示しうる動詞的文法範疇の観点から見た場合には、分詞は定動詞よりも強い動詞性を持っているように見える。

③副動詞のうち、人称を伴う条件副動詞-ki に 2 人称単数人称接尾辞が後続した時のみ、副詞節だけで文が成り立つ。この形式は強いモーダルな意味を表す。条件副動詞-ki は他の先行副動詞や同時副動詞よりは強い動詞性を持っていると考えられ、定動詞に似た部分もあると言える。

今後の課題：

定動詞直説法非過去 3 人称接辞-re/-ren と分詞非過去 3 人称単数-yi-ni と主節述語になる際に、どのような違いを見せるかを明らかにしたい。また、分詞の連体節述語機能、名詞節述語機能について精密調査を行う必要がある。さらに、定動詞が衰退し、分詞が定動詞に取って代る現象はツングース諸語全般においてどのような状況を呈しているかを究明したい。

謝辞：本稿の執筆にあたり、2 名の匿名査読者から有益なコメントをいただきました。ここに記して感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいたコンサルタントの方々にも心より感謝いたします。

略語一覧

-: 接辞境界	CVB: 副動詞	PL: 複数
=: 小辞、付属語境界	DAT: 与格	PROH: 禁止
1: 1 人称	FIN: 定動詞	PROP: 所有
2: 2 人称	IMP: 命令	PTCL: 終助詞
3: 3 人称	IMPRS: 非人称	PTCP: 形動詞
ABL: 奪格	INS: 道具格	Q: 疑問
ACC: 対格	INTJ: 間投詞	REFL: 再帰
ALL: 方向格	ITER: 反動・反復	SG: 単数
CAUS: 使役	NEG: 否定	TOP: トピック
Chn.: 中国語の要素	NPAST: 非過去	VLZ: 動詞化
CLT: 小辞、付属語	PAST: 過去	

参考文献

- 安俊. 1986. 『赫哲語簡志』北京：民族出版社.
- 江畑冬生. 2013. 「サハ語の動詞屈折形式とその統語機能」北方言語ネットワーク（編）『北方言語研究』第 3 号. 札幌：北海道大学大学院文学研究科, 11-23.
- 風間伸次郎. 1996. 「ヘジェン語の系統的位位置について」『言語研究』109, 117-139.
- _____. 2002. 『ネギダール語 テキストと文法概説』. ツングース言語文化論集 19. 文部省特定領域研究 (A) 環北太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 報告書.A2-021. 吹田：大阪学院大学情報学部.
- _____. 2004. 『ウデヘ語テキスト (A)』ツングース言語文化論集 24/A 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

- _____. 2006. 「ナーナイ語の形動詞について」 敦賀陽一郎, 三宅登之, 川口裕司, 高垣敏博 (編) 『言語研究におけるコーパス分析と理論の接点』. 東京: 東京外国語大学大学院 地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」, 95-108.
- _____. 2010. 『ナーナイ語テキスト 12』. ツングース言語文化論集 48. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- _____. 2012. 「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」 北方言語ネットワーク (編) 『北方言語研究』 第 2 号. 札幌: 北海道大学大学院文学研究科, 139-162.
- 津曲敏郎. 1996. 「中国・ロシアのツングース諸語」『言語研究』110. 日本言語学会, 177-191.
- 寺村秀夫. 1975. 「連体修飾のシンタクスと意味その 1」『日本語・日本文化』4.大阪外国語大学研究留学生別科, 71-119.
- 長崎郁. 2013 「コリマ・ユカギール語の動詞屈折形式一分詞の統語機能と形態」 北方言語ネットワーク (編) 『北方言語研究』 第 3 号. 札幌: 北海道大学大学院文学研究科, 41-54.
- 白尚燁. 2013. 「ツングース諸語包括形の形態構造に関する考察」『北方人文研究』 第 6 号. 札幌: 北海道大学大学院文学研究科北海道大学北方研究教育センター, 103-119.
- 凌純聲. 1934. 『松花江下游的赫哲族』. 北京: 國立中央研究院歷史語言研究所.
- 李林静. 2003. 「ホジェン語の「-mi/-m」と「-re」について」 中川裕編『ユーラシア諸言語の動詞論』 2. 千葉大学大学院社会文化科学研究科, 55-62.
- _____. 2005. 「ホジェン語のアスペクト」 中川裕 (編) 『ユーラシア諸言語の動詞論 (3)』: 社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書第 113 集. 千葉: 千葉大学大学院社会文化科学研究科, 40-49.
- _____. 2006. 「ホジェン語の動詞構造」【博士論文】 千葉大学社会文化科学研究科.
- _____. 2011a. 「ホジェン語の会話テキスト(1)」 北方言語ネットワーク編『北方言語研究』 第 1 号. 札幌: 北海道大学大学院文学研究科, 197-216.
- _____. 2011b. 「ホジェン語民話テキスト 蛇兄妹」『ユーラシア言語文化論集』 第 13 号. 千葉: 千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座, 131-153.
- _____. 2012a. 「ホジェン語インタビューテキスト(1)ーお産についてー」『北方言語研究』 第 2 号. 札幌: 北海道大学大学院文学研究科, 183-216.
- _____. 2012b. 「ホジェン語インタビューテキスト(2)ーお産についてー」『ユーラシア言語文化論集』第 14 号. 千葉: 千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座, 307-340.
- _____. 2013. 「ホジェン語の会話テキスト(2)」『ユーラシア言語文化論集』 第 15 号. 千葉: 千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座, 257-292.
- Ikegami, J. 2001. Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprache. *Tsunguusugo kenkyuu*: 395-396, Tokyo:Kyuuukoshoin (First appeared in: *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent international Altaistic Conference 1969 in Berlin*: 271-272, Berlin, Akademie Verlag, 1974).
- Nikolaeva, I. and Tolskaya, M. 2001. *A grammar of Udihe*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.

Hezhen Verbal Inflectional Forms and Their Syntactic Functions

Linjing LI
(Seikei University)

The inflectional forms of the Hezhen language, like those in other Tungusic languages, can be classified into three types: finite verbs, adjectival participles (henceforth simply participles), and converbs. For finite verbs, the indicative mood appears solely in the predicate of a principal clause. These verbs only have a third-person nonpast tense; other persons, numbers, and tenses are indicated entirely by the participle's predicate function. The participle possesses three functions: as the predicate of a principal, adnominal, or nominal clause—most commonly the first. Converbs function as predicates of adverbial clauses. In general they cannot be placed at the end of a sentence, and sentences cannot be formed without a principal clause. However, *-ki*—a personal, conditional converb—can be used at the end of a sentence only when connected to a second person singular suffix and when it completes the sentence. This form expresses a command to the second-person singular and has strong modal significance. In this way, the functions of the conditional converb *-ki* resemble those of finite verbs in some ways.

(り・りんせい lilingjing@law.seikei.ac.jp)